会　議　要　録

名　　称	第２回豊橋市ごみ減量推進検討委員会
日　　時	令和元年８月１９日（月）　午後１時３０分から午後３時００分まで
場　　所	豊橋市役所 東館１２階 １２１会議室
出席委員	稲田充男委員、川本恭久委員、長崎正敏委員、稲垣ローザ委員、 古地英明委員、鈴木真理子委員、鈴木幸宏委員、長坂英樹委員
欠席委員	山田剛史委員、夏目美鈴委員
環境部職員	環境部長 小木曽充彦、環境政策課長 小林正彦、廃棄物対策課長 佐藤実、 収集業務課長 若子尚弘、資源化センター長 提髪宏彰、 施設建設室　主幹 稲垣直樹、埋立処理課長 田邊章裕 環境政策課 　課長補佐 井上知之、資源循環グループ主査 三木寅男、担当 森敬広
内　　容	１．　議題 ２．　その他

議題の概要

議題１　市民アンケートの結果について

議題２　豊橋市のごみ減量に関する取り組みについて

第２回豊橋市ごみ減量推進検討委員会会議録

日　時：令和元年８月１９日（月）　１３：３０～１５：００

場　所：豊橋市役所 東館１２階 １２１会議室

司会：環境政策課長

○　あいさつ（委員長）

≪議　事≫

事 務 局：議題１「市民アンケートの結果」及び議題２「豊橋市のごみ減量に関する取り組み」について、説明（環境政策課長補佐）。

委　　員：資料２の２．リサイクル率の向上に向けて、にある円グラフについて、その他 56％とは詳細が不明なものが 56％という認識で良いか。

事 務 局：その他 56％のその他とは、もやすごみとして適切に排出されたもののことである。

委　　員：資料１の市民アンケートについて、豊橋市民約３７万人に対し、調査対象が 1,500、回答数が 599 では結果の信頼性に疑問を感じる。調査対象を無作為抽出ではなく、ごみへの関心が高いと思われる層に絞り、回答数を増やす考えはあるか。

事 務 局：豊橋市の人口ではなく、世帯数に着目している。
また、ごみへの関心が高い、低いに関わらず、幅広い層の考えを調査するために、あえて、対象を絞り込まない無作為抽出としている。

委　　員：返答が無かった 901 も意思表示の一つという認識で良いか。

事 務 局：良い。

委　　員：家庭ごみを有料化する際の金額設定について、市の認識はどうか。

事 務 局：現時点において本市としての金額に対する想定は無い。他都市の事例では 0.5 円/L や 1.0 円/L など、実施市町村がそれぞれの考えにより多様な金額を設定している。

委　　員：家庭ごみ有料化の導入は何をもって決定したとなるか。

事 務 局：市議会の議決をもって決定したとなる。

委　　員：多くの古紙がもやすごみとして排出されているという実感がある。市が自治会長へ直接働きかけることで地域資源回収が活性化され、もやすごみとして排出される古紙が資源として排出されるようになると考える。この考えについて、市の認識はどうか。

委　　員：２年程前から、市は積極的に自治会長へ直接働きかけている。

事 務 局：直接の働きかけにより、地域資源回収の実施団体数や実施回数は増えたが、担い手不足など地域それぞれの事情があり、微増の推移である。

委　　員：地域住民からの自治会への働きかけが有効と考える。

委　　員：資料２の３．現在までの取り組み、にある雑がみ分別お試し袋の配布について、配布を拡大する考えはあるか。

事 務 局：市民一人ひとりは難しいが、啓発活動の一つとして出来るだけ拡大したいと考えている。

委　　員：雑がみをダンボールに入れて出することについて、市の認識はどうか。

事 務 局：雑がみとダンボールはリサイクルの方法が異なるため、推奨しない。

委　　員：資料２の４．古紙のリサイクル状況、にある古紙回収量について、民間古紙回収拠点も含めた市内すべての量であるとの認識で良いか。

事 務 局：地域資源回収により回収した古紙の量であり、民間古紙回収拠点など民間が独自に回収している量は含まない。
民間古紙回収拠点の古紙回収量については調査し、次回の委員会で報告する。市内の古紙リサイクル事業者は東三河廃棄物処理事業協同組合に加盟しているか。

委　　員：加盟していない。

委　　員：地域資源回収の実施団体数や実施回数が増えている一方で、古紙回収量は減り続けているという認識で良いか。

事 務 局：良い。

委　　員：発行から３か月以上経過した新聞はリサイクル出来ないという情報がある。この情報について、市の認識はどうか。

事 務 局：一般的な事実と異なると考える。発行日とリサイクルの可否に関係は無いと認識している。

委　　員：資料２の３．現在までの取り組み、にある講座、講習会の開催について、実績はどうか。

事 務 局：いずれも平成 30 年度実績として、未就学児向けが 57 園 6,178 人、小中学生向けが 55 校 3,641 人、一般向けが 19 団体 901 人である。

委　　員：老人会での講習会の開催や老人会による地域資源回収の実施も有効であると考える。

委　　員：吉田方校区では様々な団体が地域資源回収に取り組んでいる。

委　　員：小中学校 PTA や老人会などの団体に加盟している世帯は、加盟団体が実施する地域資源回収に古紙を出す。それらの団体に加盟していない世帯の古紙を資源として回収することが重要と考える。

委　　員：地域資源回収が活性化すると、市の収入となる資源物の売却益が減ると考える。この考えについて、市の認識はどうか。

事 務 局：収入の減よりも、収集や処分に係る支出の減の方が重要である。市が直接取り扱う資源物の増減では無く、もやすごみとして排出される古紙の減少によるもやすごみの減少を重要視している。

事 務 局：自治会が管理するごみステーションを利用した地域資源回収の実例がある。一度仕組みをつくればその後の負担が少ないことから、市としてはその方法の普及に期待している。

委　　員：資料２の５．生ごみのリサイクル状況にある、平成 29 年度以降のもやすごみに含まれる生ごみの割合について、市の認識はどうか。

事 務 局：自治会の協力を得ながら、生ごみ分別の啓発に継続して取り組んでおり、効果を得ていると認識している。
一方で自治会非加入世帯や外国人世帯に向けた啓発や分別意識の低い世帯に向けた働きかけが課題であると認識している。それらの世帯に向けた適切な取り組みにより、もやすごみに含まれる生ごみを減らすことが出来るのではないかと認識している。

委　　員：生ごみの発生量は夏に多く、冬に少ないといった季節変動があると認識している。季節ごとに生ごみの収集頻度を変える、直接持ち込める場所を用意するなど出し易さへの取り組みについて、市の認識はどうか。

事 務 局：生ごみの発生量に季節変動はあるものの、もやすごみやプラマークごみなど、生ごみ以外のごみの収集頻度を含めて考えると、現況の週 2 回が最大であると認識している。

○　その他（事務局からの説明）

・　家庭ごみ有料化に関する調査結果について

・　環境教育ビデオ上映